

PDTによる進行がんの効果。

進行がんでは、気管支を閉塞し呼吸困難を訴える患者さんが多い。PDTによって閉塞した気管支を治療し、閉塞した腫瘍が消失することによって呼吸困難が改善される。

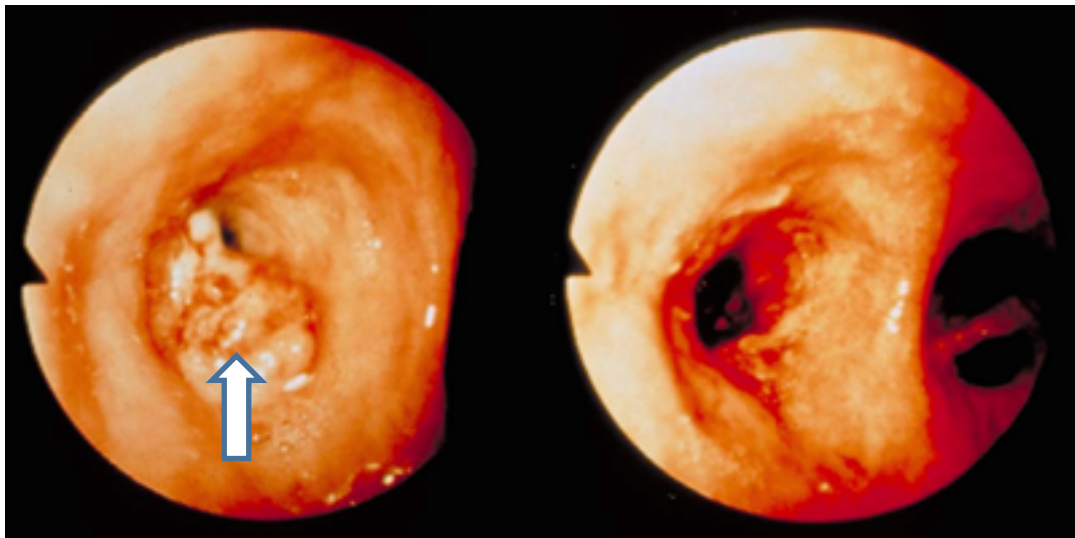
1. 左が腫瘍によって気管支が狭くなっている(矢印)。息切れを訴えていた。

右が治療後で「がん」は消失し、呼吸機能は改善された。

写真1)

治療前

治療後



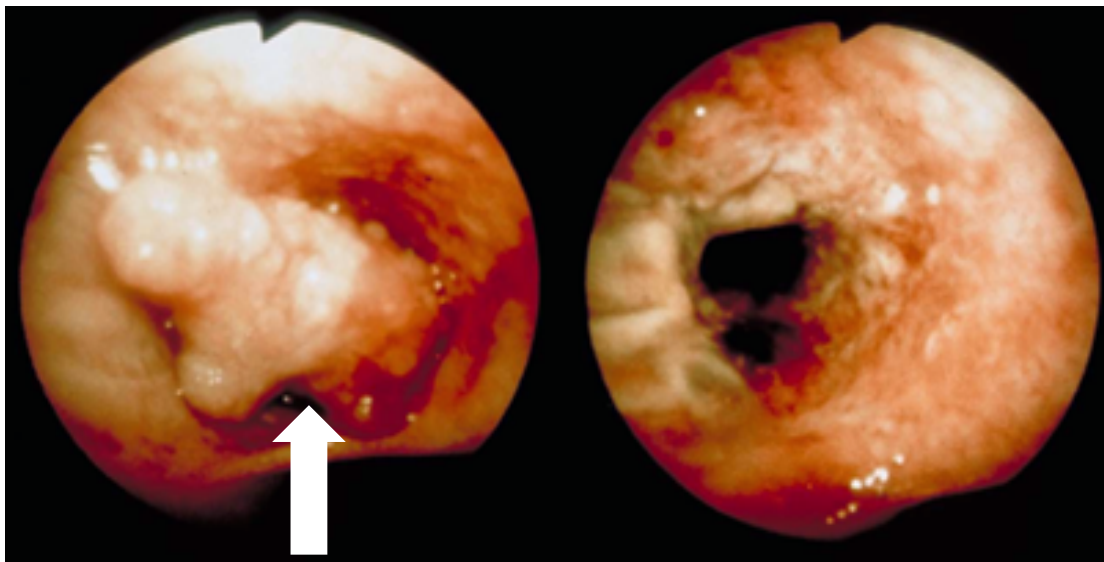
2. 太い気管支が「がん」によって閉塞している(矢印)。呼吸困難を訴えた。

右は治療後で呼吸困難は解消した。

写真2)

治療前

治療後



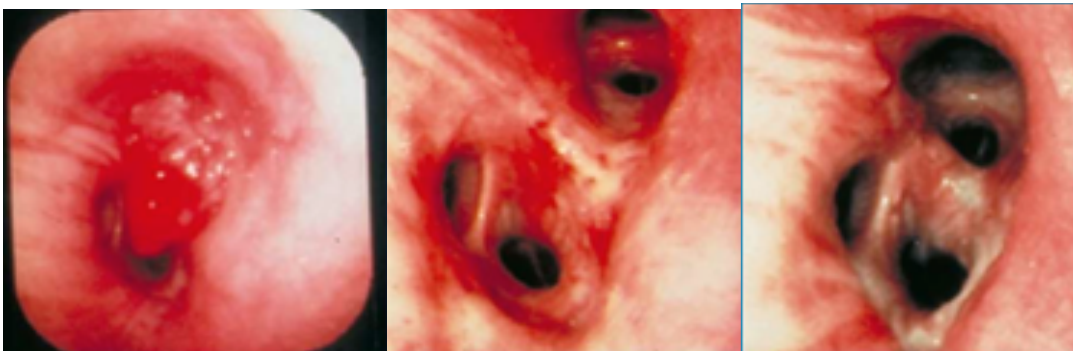
3. 進行肺がんの PDT と手術の合併治療。

手術前 PDT による縮小手術(気管支形成術)。

PDT と手術との合併治療によって気管支肺の摘出範囲を小さくすることができる。患者さんの肺機能の温存が可能になる。

左矢印が「がん」で閉塞している。中は PDT 後で「がん」は消失した。その後手術をして肺切除はなく、気管支の切除だけで治療が完了した(右)。

写真1)



手術前 PDT による縮小手術(気管支形成術)のシエーマ。

黄色のところ「がん」で #11 はリンパ節転移のあるところ。PDT の後「がん」の発生していた黄色のところの気管支と #11 のリンパ節を切除した。

写真2)

